

## 会員サイト公開用 役員活動報告書

名 前	長谷川 大悟
担当業務	理事会、重点諮問委員会、代議員ネットワーク検討部会、士会支援部会への出席 月刊福祉介護テクノプラス執筆 前記に附帯又は関連する調査・調整等

内 容			
日 付	他団体	会議名	場所
10月6日		都道府県士会意見交換会	オンライン
10月7日		第7回理事会	日本理学療法士協会会館
10月8日		組織運営協議会	オンライン
10月17日		第1回代議員ネットワーク検討部会	オンライン
10月24日		重点諮問委員会会議（理学療法士版 EPOC）	オンライン
10月31日		第4回業務執行理事会傍聴	オンライン
11月19日		第5回業務執行理事会傍聴	オンライン
11月20日		第3回理学療法士版 EPOC 検討委員会	日本理学療法士協会会館
12月1日	○	月刊福祉介護テクノプラス 執筆発刊	
12月9日	○	日本理学療法士連盟研修会および懇親会	TKP 赤坂センター
12月11日		第3回士会支援対策検討部会	オンライン
12月19日		第6回業務執行理事会傍聴	オンライン
12月27日		第2回代議員ネットワーク検討部会	オンライン
12月28日		第4回理学療法士版 EPOC 検討委員会	オンライン
所感	<p><b>【理事会】</b></p> <p>訪問リハ事業に関する議題について、協会としての方針を示す際には、反対意見を調査分析し、払拭し得るエビデンスの構築が重要であり、いくら理想を描いても結局、議論の場で反対票が投じられる可能性が高い。本件に反対されている団体やその内容について、過去の分科会等を精査し、反対意見につながる原因を探り、本会としての見解を示すことを意見として述べた。</p> <p>次期総会の完全オンライン化について、開催にあたり費用削減に関しては賛成であるが、代議員と直接対面できる年1回の機会をオンラインにすることの是非について、再度議論を尽くしていただきたい旨、発言した。代議員と協会との相互理解を深め組織強化を図る中、完全オンライン化ではなく、他事業予算の見直しやハイブリッド開催あるいは低額会場の選定、予算上何人までなら現地参加が許容できるのかなど再度検討すべきである旨、提案した。</p> <p>会員動向について、退会・休会の抑止が喫緊の課題であることから、退会・休会理由の上位を分かりやすくまとめ、共通認識として示した上で議論を深めるべきである旨、発言した。</p> <p>理事会では机上の空論ではなく、いかに現実的で実行可能な提案が出来るか、会員や業界全体にとってプラスとなるよう常に考え、行動と発言に留意していきたいと考える。</p>		

	<p><b>【代議員ネットワーク検討部会】</b>  部会長の任を拝命し、委員と共に一定の成果が見出せるよう検討している。これまで代議員にフォーカスした会合は乏しく、一方通行の情報共有であった。組織強化を図るためには代議員の役割を明確にし、相互理解を深め、更なる協会地盤を強固としていけるよう代議員ネットワーク構築の可能性について議論を深めていく。</p> <p><b>【重点諮問委員会（理学療法士版 EPOC 検討委員会）】</b>  当該委員長として委員の意見を集約し、医師教育で使用されている EPOC のような ICT を活用したオンライン評価システムが理学療法士教育にも有益であるかどうかを検証し、未来の教育制度の一助となるよう答申書をまとめている。</p> <p><b>【業務執行理事会傍聴】</b>  協会の業務執行状況などをリアルタイムに把握するため、毎回必ず傍聴し、理事会での意見を述べる基としている。根拠なき発言は不毛な議論となりかねない。現場に即した会員にとってのメリットにつながるよう、理事としての職責を全するには傍聴は欠かせないと考えている。</p> <p><b>【月刊福祉介護テクノプラス執筆】</b>  協会理事として特別養護老人ホーム(以下、特養)を含む施設の現状と今後の展望について「理学療法士の知見を活かす～逆境を好機に変える特養での努め～」をテーマに寄稿した。特養に勤務する理学療法士の数は会員全体の 1%以下である。制度上の課題も多くあるが、それでも社会にとって必要であるべく、自らの専門性を発揮し、身体作り・生活動作の専門家として、皆様のお役に立ちたいと願い 1 日 1 秒でもその人らしくいられるよう日々精進して参る所存である。「逆境」と言う思い通りにいかない境遇をネガティブに捉えるのではなく、柔軟な発想と広い視点で考えることが出来れば、「逆境」は「好機」に変えられ、アイデアに変わり、発展へと繋がるものと考えている。これからも現場の視点に重きを置き、協会事業に反映したいと思う。</p> <p><b>【日本理学療法士連盟研修会および懇親会】</b>  協会と連盟は、車の両輪に例えられる。現場の思いを政治の場に繋げるには、連盟の活動内容を理解した上で政策実現に向け職務遂行にあたることが肝要である。</p> <p><b>【士会支援対策検討部会】</b>  低迷する協会会員率において、いかにして士会支援が出来るか、地方士会の役員としての経験を活かし、理想論ではなく現場に即した現実的で実行可能な提案をし、会員率向上に寄与するよう尽力する。</p> <p>その他、前期に関連する各種会合において、事前調査および調整等を行った。</p>
報告日	2024 年 1 月 20 日

※「他団体」に○がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。